

団体ヒアリングまとめ

(1) ヒアリングの概要

第2次橋本市子ども・子育て支援事業計画を策定するにあたり、子ども・子育てに携わり、現場で様々な活動をされている方々のご意見を計画策定に反映するため、関係者に座談会形式でのヒアリング調査を実施し、意見のとりまとめを行いました。

- 調査日 : 2019年9月24・26日・10月1日
- 調査対象 : 団体アンケート回答36団体（送付54団体）中、出席10団体
地域子育て支援関係、市民サポートセンター登録団体（子育て支援）、労働者関係、母子保健関係、家庭教育支援関係
- 調査方法 : 団体の代表と合同の座談会形式

(2) ヒアリングで寄せられた意見

■地域の子育て支援にかかわる団体A 活動概要について（9/24）

主な意見
○市から「食べるものがない家庭がある」という話を聞き、ショックを受け、子どもを支えたいという思いから子ども食堂を始めた。
○子ども食堂について、貧困を対象としたとは言わず、孤食をフォローするという方向性で取組を進めている。
○30名限定で食堂をしていたが、現在は70食まで用意している。
○こちらから声かけができないため、困難を抱える家庭に取組や声が届いているという感触がない。
○困っている人にどうやったら声が届くのかということが課題。本当に困っている家庭が子ども食堂に来ているのかという疑問がある。
○食堂には親が子どもを連れてこないといけな。ネグレクトや連絡が取れない家庭の子どもに、どうやったら食堂に来てもらうことができるか考えている。保護者の了解が必要だが、配達という手もあると思う。
○巡回の食堂をやろうかという話が出ている。

■地域の子育て支援にかかわる団体B 活動概要について（9/24）

主な意見
○もともと1年限定の事業だったが、地域でアンケートをした結果「やってほしい」という声が多かったことから、事業を再出発した。
○子ども食堂という名前だとマイナスイメージがあるかもと、「つれもて」という名前にした。

- もっと明るくしたい。共生食堂にしたいという思いがある。
- 本当に困っている家庭は三者面談に来ないと聞いている。
- いろいろな場をつくって参加してもらうことが重要。そのために、民生に働きかけるといった取組を充実していく必要がある。

■地域の子育て支援にかかわる団体C 活動概要について (9/24)

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○学童と学校の連携が必ずしも十分にできているというわけではない。 ○学校にいる子、一度帰宅した子、学童に行っている子で扱いが違っていると感ずることがある。 ○学童に対する先生側の理解が滞っているのではないか。 ○学校の施設を借りようとしても、教員から「残業できないから、貸すことはできない」と断られてしまう。場所だけでは、心の居場所をつくることはできない。 ○教育委員会と会議を設けており、相談する機会もあるが、学童と教育委員会がコミュニケーションをとる機会を充実することが重要。学童と教育委員会の関係がギクシャクしていると、子どもに影響が出かねない。 ○学童について、何年も取り組む中で、昔と比べて理解を得られるようになってきた。もっと教員に理解を広げていく必要がある。 ○学童のスキルアップに力を入れてほしい。施設だけでなく、保育の中身も充実しているかが重要。

■地域の子育て支援にかかわる団体D 活動概要について (9/26)

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○5月にたちあげた一般社団法人 学習支援他ランチ・カフェなど、食を通じた居場所づくり <ol style="list-style-type: none"> 1.子どもから高齢者が安心できる居場所 2.経済的な困難他子どもの貧困（夢をもって将来を） 3.地域のコミュニティとして地域のみなさんと活動したい ○教員OB・塾の講師等の7名で月から金まで16時から18時。勉強をしたくてたまらないという子に、マンツウマンで現在12名の子。 ○最近の思いは、ひとり親家庭の子どもが来てほしいと思っている。 ○最近では特に、障がいのあるこどもさんたちへの支援を希望するのが12名のうち4名。勉強がしんどいし、この活動がないと家庭がしんどい。 ○ランチ12食ほど月に3回、カフェは自由に。自治会の皆さんとの活動をいれながら、人があつまるしかけ。この場所は来やすい場所だと。 ○資金集めの内職を。就労をしていない親のため、子どもをみながら、少しおこづかいを渡せるようにやりたいと。思いがたくさん。まだ実現できていない。 ○こども食堂については、貧困の子たちばかり集めてとはなかなかできないから、緩やかに考えながら進めている。子どもと保護者だけしかできないが20数名。ニーズを把握

しながらやり方を変える必要がある。

○不登校・引きこもりの家庭への支援で家庭訪問もやっていきたい。公では教育相談センターがあるが、そこでは訪問しての支援とまではいかない。民がやることで、公にも考えてもらえれば。計画のなかに民がかかわっていける部分があればうれしいが。

■地域の子育て支援にかかわる団体E 活動概要について (9/26)

主な意見

○任意団体で活動中であるが、この10月から非営利型一般社団法人となる。1歳～6年生までを対象に（中には中・高生もいるが）自然体験学習をおこなっている。橋本には自然が多いが危険・入ってはいけない、都会化していて森で遊んだことが無い子がほとんど。塾（週3）など。便利な世の中だが逆に不便な生活を活動としている（薪わりをしないとご飯を食べられない、釜で炊飯、冷たい水でお茶碗を洗う。）。52名の子どもが登録、親を含めると70名。

○民間が、市の現状がわかっているだけに頼れない。自分たちです。逆にそれが民を育てることに。甘えるのではなく。行政を信じるなど大阪市。バサツときられることがある。独自に考えやっていかないといけない。それが強み。前向きに。

■地域の子育て支援にかかわる団体F 活動概要について (9/26)

主な意見

○地域の子どもたちの運動発達がめまぐるしく落ちている。

○最近では塾等で参加できず、要望によって介護予防事業へと。

○夏休みはサマースクール等に参加し活動している。

元気クラブはしもと

○地域総合型スポーツクラブとして1中学校に1つ設けると文科省から。子どもから大人までのニーズにあわせて教室を開催。会員は150人。誰でも気軽に来て、愚痴言って、体験できて。

○空き教室もかしてくれない。市は人事異動がありそのたびに説明。クラブハウスのようなものがあればよいが。各小学校にある学童がもっと間口を広くして団体を受け入れる体制であれば、お互いに自然体験をし(H) 食堂をし(P) 食育も学び、職場体験で企業(Y)にも協力いただき、橋本市がもっと良いものになるのでは、良い動きができるのではないかと構想を描いた。だから出向とも声掛けた。

■母子保健関係団体 活動概要について (9/26)

主な意見

○主な仕事は、子育て世代包括支援センターの事業へのお手伝い。赤ちゃんに関する健診、生後3～4か月の家庭を訪問。

- 地域（区長推薦）の推薦であり、なり手は少ない。
- 推進員個人の思い、あたらしい事業をしようと思っても難しいところあり。
- 根本的には赤ちゃんに接するのが楽しいとの思いでやっている。

■労働者関係団体 活動概要について（9/26）

主な意見
<p>○勤務は 9 時から 18 時。3 交代のシフトで夜勤もあり、子どもが小学生となった頃から夜勤に。365 日休みが無い職場。退職する職員が少ない。若い世代がはいてこないのが悩み。若い世代をあつめるためにも魅力ある職場、企業でないといけない、それが法人の為になる。職員をやめさせないフォローをすることが、法人にとってはメリットになるという事を周知することが法人にとって良いことだと思う。</p> <p>○3Kといわれなかなか就業者が集まらないなか、結婚・出産等で退職してしまわれよう、長く定年まで勤めていただきたいという思いで同盟に参加。子育て中の職員が長く勤められるような配慮、職場づくりができるよう。</p> <p>○職員 64 名うち正規 52 名、非正規 12 名。中学生までの子を育てている 18 名。育休 2 名。産休 1 名。4 月に育休から復帰が 2 名。5 年 10 年と経験のある職員に辞められるのであれば、何とか続けてほしい、法人にとってもありがたい。先輩たちも産休・育休の痛みをわかっているので、理解・協力ができている。30 年以上の職員が 10 名。今は孫育てにかかわり、様々な面で管理職の理解が深い。シフト制なので残業がない。持ち帰り仕事がない。</p> <p>○生れる前後 1 週間ほど育休（産休）をとる男性職員もいる。11 名のうち 2 人が子育て中。不登校である職員もいる。参観日のその時間を抜けて行ってよい、</p> <p>○30 後半の職員は少ないのは、そういう啓発ができていないから。</p>

■地域の子育て支援にかかわる団体 G 活動概要について（10/1）

主な意見
<p>○現在の活動するうえでは、子育て、孫もり、親の介護等で動きづらい。孫もりでは 3・4 年は身動きが取れず、親の介護では、最悪亡くなるまで身動きが取れなくなってしまう。自分たちでできることを欲張らずコツコツやっいてこうと続け得ているのが、●●（当該団体の別組織）といのちの授業の支援がメイン。</p> <p>○サークルが衰退しているので、そのために出向くことがなくなっている。公民館のサークルへの支援が、以前に比べて乳幼児についてのカバーがされているかと思う。</p> <p>○橋本の子育ては悪くはない。他の市のこともよく聞か。和歌山市からわざわざ●●へきてくれている。なかなか受け入れられ難いのか合わないのか、●●のようなゆったりした空間に身をおいてしまおうとなかなか他には行きづらいよう。</p> <p>○公園で遊んでいる子に「お名前は？」と声をかけるだけでも不審者のように思われてしまう現状。地域の問題もあるであろうが、あったかい町でありたいと思う。</p> <p>○●●（当該団体）のようなところがよいと思う。とりたてて何をしてもなく、場所の</p>

提供だけ。街づくりを高齢者中心にやっているが、共育コミュニティもあることだし、健全育成・街づくり。これってなんかならないの？と思う。共育コミュニティと健全育成は何かすればできるかと思うが、高齢者についてはどちらにも席を置いている人がほとんどのなかで会議等重複し、なんかできないのかと思う。

■地域の子育て支援にかかわる団体H 活動概要について（10/1）

主な意見
<p>○子どもが自立した大人へ成長できるよう、保護者が子育ての不安や悩みをもって孤立することがないように、地域・学校・行政との連絡のもと、子どもの育ちや子育てを見守っていけるよう主任児童委員や支援者要請講座修了者等で構成されたチーム。</p> <p>○講座の開催、「げんきっこ famry」を配布し個別相談等案内するが、活動員（30人）がいるが活動はかつかつ。メンバーを増やすこともなかなかできない。</p>

★さまざまな意見★

■子ども・親の現状について

主な意見
<p>○放課後の学習支援。塾に行かせることができない、外で教えてくれば助かるという家庭がある。</p> <p>○就労・帰りが遅い。支援をしてほしいとの声。</p> <p>○最近では特に、障がいのある子どもさんたちへの支援を希望している。勉強がしんどいし、この活動がないと家庭がしんどい。</p> <p>○今どきの子は忙しい。また孫の友だち付き合いをみると、放課後することが無い子もいる。つねに付きまってくる子、行き場所が無い子を活動団体につなげては？</p> <p>○学童にも行けない子。行かせられない子をどう支援するのか。他の家庭が受け入れるのか。命にかかわるまでいかない見守りを必要とする子（中間の子）がたくさんいるように思う。</p> <p>○今の親たちもしんどい。</p> <p>○貧困？情報が入ってこない。年寄り知らない。主観でものを言う。情報が上手に回っていけば、より理解がひろがるのではないか。</p> <p>○高齢者の孤立・子どもの親の孤立。きずな、つながりがとても大事。</p> <p>○子ども食堂を今後どうするのか。飲食店のようなコーナーをもうけ日を決めて子ども食堂としてもらえたら、いつでも利用できるのだろうなど。隅田小学校1年生、教育委員会からの補助を受けている家庭が30%いると。2割を超えたら大きい。</p> <p>○話を聞かない子どもが増えている。ふれあいの先生は友達感覚だから良いが、先生の話聞かない。</p> <p>○1年生の指導が大変になっている。人の話を聞くという大切なことをどこで教えるべき？お母さんも聞かない。それを言える立場のボランティアが今は聞くととき！と言いな</p>

がらの講座説明。それでも、あとからこれはどうするの?と聞いてくる親。

- 無償化となり働く親が増えている。保育園ではおむつをとり、家に帰ってきたら面倒だからとおむつをする。幼稚園に行くときはパンツにはきかえる、そんな家庭の内情がきこえてくる現実。それがだめというつもりはない。明らかに昔とは違っている。
- お母さん自身に何かをする力がない。こまめにものを作ったり、料理をしたりのノウハウは半分以上のお母さんにはない。お金があればどんどん安価なものを買って代用すればよい。それで自分の負担を少なくできればよい。ああせよ、こうせよという時代ではない。それを嘆いていたら今のお母さんと話ができない。公的なものも、私的なものも、利用できるなら上手に利用すればよい。親がどうの、子どもをみていないという親もいる。自分の子は自分しか可愛いと思ってやれないのだから。
- まだ、わが子が可愛いと思っている親なら良い。愛着問題のある子どもが増えている。素直に出せる子は良い。出せなければ、2回目の発達（節目）に問題が出てくると。最近増えている。愛着ってどこからなのか。子どもと一緒に遊ぶ時間を作る親は良いが、そうせず自分のことに使う・都合で動く。スマートフォンを見てばかり、子どもは無視。誰かがかわりにその子に愛着を与える。今や地域の人がその役割を担うのか。そういう時代なのか。愛着行動をしてもらった子は育って行ける。
- 気になる親御さん、特に転入してきたお母さん。一人でどこにもいかずいる。転入の際、なにかお伝えできないか。主催講座にきてくれたときにきいた。近所のつながりがない。結構な人数でいる。転入家庭への支援としては、保育士さん、保健師さんが訪問するとかできるのか。

■あるべき姿

主な意見

- 放課後デイサービスのなところが校区に増えることが必要だと。そんな活動に移行していけないか。
- 少し手をくわえることで伸びるであろう学習への支援と、障がいのある子たちの放課後の居場所づくりがあればよりよい。また地域の方の居場所ともなれば。
- 公が手を伸ばせない（できない）範囲のところを立て民は民でできること、公と民の間にあるような団体として活動できれば。こういう団体が増えれば橋本市の大きな力に元気になるのでは。こういう団体が増えれば、やったかいがあると。
- たとえば要対協でかかわっていて、市から情報を提供してもらえれば、すぐ対応していきたいが、公と民の情報の共有が難しい。
- 子どもをつれて職場に行っている家庭もある。学童もあるが。居場所、学校等で放課後の活動がもっとふえて居場所になれば。
- 橋本市にも何か1つないと集まらないのでは。ここ！という場所が橋本にはない。ないなりに工夫が必要かと。お金をかけてつくる公園でなく、自然のなかの森のような公園であれば遊具がなくともよい。

- メンバーが似かよっているなかで、同じような会議・話があちこちの課でされているのが1つに整理できないのか。
- いくつもの顔を持っている人。良い人は皆が声をかけて。県でも子育て講座がなくなってきた。それを受ければやろうかと思う人がすこしでもできてきたのに。研修をきき参加をうながす。支援に向かう母数が減っている。次をみつけるのがたいへん。
- 0・1・2の就園前、妊娠期から在宅のころにどういうアクションをおこすのか。子どもを大事に育ててねとお願いできる機会が必要。
- いろんなところにまくばって子育て支援をしてもらえればよい。いろんな分野でされている。踏襲できればなおよいが。1歳8か月の健診等でつかまえられる。のびのびに、たんぽぽにと続く。支援の必要な親によりその家庭の子には、高学年には自分でご飯も炊くようにと。

■子育て支援センターの取組・連携について

主な意見
○サークルがこんなになくなってきているなかで、それに代わるものは子育て支援センターではないか。そこにきているお母さんと話す機会があり、支援センターは親がつながる場ではなくなっている、職員はただ見ている、子どもが遊んでいればよいではない。親をつなげる取り組み、声掛けがいる。支援センターでは友達ができませんと言う親がいる。
○それを嫌がる親もいるのが現実。そうっとしておいてくれる場をもとめている。
○目的をもって支援センターに行く親が増えている。子どもを成長させてくれる園がどこかを見定める為。友達が出来なくてもよい。事業の目的と親の目的が違っているように思う。
○支援センターの役割が大事。どこでもいってもらってよい。良い保護者をつくれればよい。支援センターはしっかり親を捕まえて。(保護者会がない園を知って選ぶ親もあり)

■学童の取組・連携について

主な意見
○学童では、両親からの相談があり、子どもの背景を踏まえながら学校と連携して対応することができる。学校、学童、親という子どもに24時間関わっている色々な人が連携できる体制がある。
○学童に来ていないが、学校に来て何かしている子がいる。声をかけるようにしている。
○無償化の影響で、学童の費用が相対的に高いと受け取られかねず、不安がある。
○施設の老朽化が課題。空き教室はあるものの、利用できない状況だ。学校側に働きかけていく必要がある。
○放課後ふれあいルームについて学童との動きも含めて動きがよいのでは。お互いにより

よくなるのではないのか。
 ○空き教室もかしてくれない現状、各小学校にある学童がもっと間口を広くして団体を受け入れる体制であればよい。
 ○シルバーの力をかりて学童を。指導員研修を受講（岩出市）。良いことだと思う。世代間交流にもなる。

■教員について

主な意見
<p>○共育コミュニティについて、教員の理解がなかなか得られていなかったため、夏休みに教員に対して説明をした。学童でも同じような取組ができれば良いと思う。</p> <p>○教育フォーラムで学童について話をした際に、多くの教員に話を聞いてもらえた。教育フォーラムのような場をつくり、また話ができれば、学童についての理解を深めてもらいたい。</p>

■市内の学校の学童について

主な意見
<p>○学童がNPOに入っていない学校では、そこに通う子どもの保護者が動かなければ対応できない。</p> <p>○NPOに入っている学校とそうでない学校で学童に差があるのは問題。</p>

■団体の連携について

主な意見
<p>○市内の取組やイベントが重複しており、地域で子どもを取り合っている。行政をはじめ、俯瞰的な視点で取り組むことが必要。</p> <p>○行政や他の団体との連携・協働が一番難しい。また、行政の内部の連携も十分ではない。外部を巻き込んだ連携をしていく必要がある。</p> <p>○民間と行政がやり方を考える場をつくる必要がある。</p> <p>○お互いに協力しあって出向するのはどうか。</p>

■いじめについて

主な意見
<p>○学童で見かけるいじめについては、子どもの背景を踏まえて、保護者の理解を得ながら話し合いで対応させてもらっている。</p> <p>○いじめではないやり取りであっても、学童の職員が声かけをし、指導するようにしている。</p>

■団体活動上の問題について

主な意見

- 資金集めの内職。
- 活動の7名はボランティア。様々な方にかかわってもらうためには、完全無償は難しい。
- 日銭が必要。毎月入るお金が必要。収益を分配できればなおよい。
- 学生のボランティアがとても助かっている。
- 補助金についてはランニングコストは対象外とのことだが、団体の活動により、何かを計画して実行するというものではなく、居場所の提供。でもそれが子育て支援で必要とする人がいる。そんな団体への補助を考えてほしい。
- 子どもが大学へ行くようになったら働く団体構成員がほとんど。謝金も最低賃金であるので、もう少し増とすれば活性化するかと。どうしても仕事を中心となる。ボランティアで構成員を維持するには難。いったん廃止して再編成するのもありか。その時はいけないという人がほとんど。細々と動ける間は現状で動く方がよいかと。